

## 議事録

会議の名称	令和4年度第9回西東京市総合計画策定審議会	
開催日時	令和4年12月16日（金曜日）午後1時30分から3時30分まで	
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室	
出席者	市川武志委員、伊藤一雄委員、伊藤泰彦会長、佐々木亮翔委員、河野美晴委員、小松真弓委員、佐久間雄一委員、篠原京子委員、土井隆司委員、中島伸委員、松川紀代美委員（50音順） 事務局：保谷企画部部長、佐野企画部副参与兼企画政策課長、樽見企画部主幹、鹿森企画政策課課長補佐、小倉企画政策課主査、齋藤企画政策課主任、鎌田企画政策課主事 欠席：中嶋亮太委員	
議題	議題1 開会 議題2 諮問事項に対する協議検討 （1）市民参加について（報告） （2）基本構想について 議題3 その他	
会議資料の名称	資料1	第3次総合計画策定に向けた市民参加の報告会 実施報告書
	資料2	第3次総合計画策定に向けた若手職員ワークショップ 実施報告書
	資料3	第3次総合計画 基本構想の構成（案）
	資料4	第3次総合計画 基本理念検討経過
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録	
会議内容		
<p><u>議題1 開会</u></p> <p>○会長より開会の挨拶</p> <p><u>議題2 諮問事項に対する協議検討</u></p> <p>（1）市民参加について（報告）</p> <p>事務局から資料1、資料2について説明</p> <p>○会長</p> <p>市民参加の報告会で多くの意見をいただいた。これも踏まえて後ほど基本理念の検討を行う。若手職員ワークショップを途中まで見学したが、若手職員が積極的に議論している姿を見て嬉しく感じた。</p>		

○委員

若手職員からの意見は聞いているが、さらに上の世代からこれまでの反省点や将来像について聞いていないのではないか。

○会長

非常に重要な意見であるが、これまでの市民参加において、子育てから高齢者福祉まで幅広いテーマについて議論している。若手職員ワークショップは、子どもや若者を対象とする取組のみをテーマとしているわけではない。若手職員ワークショップ参加職員は様々な課題を自分事として捉えて職務に当たっていることが分かる。

○委員

市民ワークショップに参加したが、参加者層は幅広い世代であり、高齢者も参加して、真摯に積極的に議論していた。これまで得られた市民意見はそれぞれの経験や知識等に応じて整理できるので、それらを把握して組み込めば良いのではないか。

○委員

自分の世代の意見が反映されていないと感じる人が出ないように、プロセスを適切に踏んで策定していることをきちんと文章の中で示してほしい。

○会長

策定に当たって、多世代・多分野・多様な立場の人々の声を集めて幅広いテーマについて議論したことを示してほしい。

○委員

アスタの展示を見に行ったところ、様々な意見が出されていた。市民の皆さんからの声を大切にしていることを資料のどこかで示してほしい。

○委員

若手職員ワークショップの参加者35名の男女比はどの程度か。

○事務局

およそ半々である。自主的な応募によって参加者を集めている。

○委員

審議会を重ねるにつれ、10年後の自分の姿を考えてみるようになったが、若い層だけでなく、幅広い世代からの意見を反映してほしい。

(2) 基本構想について

事務局から資料3について説明

○会長

基本目標は、基本施策のために行政サービスの分野で分けられている。基本理念の説明では、どのようなプロセスを経て市民の声を集めたかを紹介してはどうか。また、基本目標・基本施策の説明は、基本方針の6つの視点に触れることや、市民参加企手続や審議会が出た意見を踏まえてはどうか。

○委員

基本目標を分野別にするからこそ、分野が重なっており縦割りにできないところを意識していかないといけない。

○会長

「市民協働」は全体に関わる分野であるため、基本理念とその説明の中でしっかり説明する必要があるのではないか。

○委員

縦割り・分野別の基本目標は、今後実行するに当たっての利便性は高いが、総合的な視点がなくなる懸念はある。他分野にまたがるテーマを見落とさないように注意し、連動できる施策や実施すべき施策を別に示すなど、工夫が求められる。

○会長

目標には縦割り型と横断型がある。社会的な課題を見据えて、全体にまたがる目標をもう一つ立てて全員で共有するあり方もある。

○事務局

分野の横断は重要だが、連携の方法や、どのように示していけるか検討したい。

○委員

基本目標の6つのカテゴリは市の事業を網羅している。目標は市民が読んで分かりやすいものにすることが重要である。

○事務局

基本目標のフレーズは、第2次総合計画の「まちづくりの方向」を踏まえ、考えていきたい。

○委員

基本理念において、市民と行政が気持ちを一致させて取り組むことを記述しているが、参考資料2の基本理念のページにその内容が記載されていないため、基本理念を掲載する箇所にも記載をしてほしい。第2次総合計画の「2 理想のまち」と「3 まちづくりの方向」は同じことを2つに分けているようにも思えたが、第3次総合計画案は、基本目標で分野ごとの6つにまとまっていて、市民から見るとシンプルで分かりやすい。分野を横断するものに関しては、序論できちんと示せば良いのではないか。

基本施策の末尾が「ために」となっているのはなぜか。施策は策なので「〇〇する。」と言い切る形の方が説得力あるのではないか。

○事務局

基本施策の下に位置付ける各施策を束ねる意味合いがあり「ために」としている。その下の各施策は、表記を検討する。

○会長

市民と行政の協働については、策定プロセスを含めて基本理念の前段で説明する形が良いのではないか。

○事務局

現時点では、基本計画の総論で、計画策定にあたり実施した市民参加の結果概要等も合わせて説明することを想定している。

○委員

西東京市の財政がどのような状況にあるか、今後どのようになっていく見込みなのか、ということも記載してはどうか。

○事務局

財政の記載については、これまでと同様に考えているが、改めて審議会で示す予定である。

○委員

総合計画に数値化された目標はあるか。10年後に何を基準に評価するのか。

○事務局

基本計画において、施策ごとの指標を示す予定である。

## 事務局より資料4について説明

### ○委員

基本理念は誰もが受け取りやすいものであることが一番重要である。スローガンともいえる基本理念は、全員が良い方向に解釈できる「包括性」と、鵜呑みにされない「いい意味での疑問」が必要である。

### ○会長

基本理念については前回も審議を行っているが、本日の審議により案の中から2、3個に絞り、次回の審議会で1つに決めたいと思うがいかがか。また、前回の審議を踏まえ、「地域のたからを ともに育み みらいを築くまち 西東京」という案を考えてみた。

### ○委員

会長の案はおもしろくて良いが、『「地域」のたから』では意味がぼやけるので、「まち」か「西東京」のたからではないか。「西東京」で終わってしまうと、まちに対する愛着がわからないのではないか。

今まで検討してきた案1から案5は行政と市民の協働の結果であるため、変えすぎてしまうのも良くない。

SDGsをどのような形で反映させるのか。第2次総合計画から更に変化して、時代に即した形であることを示すために、SDGs版いこいなを作成し活用すると良いのではないか。

### ○会長

いこいなデザインの話をすると話が逸れてしまうが、SDGsは重要な課題であるため、SDGsについての記述を加えることは検討してほしい。総合計画の見せ方には市の意向もあるので、事務局は一つのアイデアとして受け止めてほしい。

### ○委員

案2について前回の審議会で意見が挙がっていたが、「深呼吸ができるまち」ではなく、「深呼吸したくなるまち 西東京」というアイデアもでていたが、しっくりきて良い。

### ○委員

若手職員ワークショップのアンケートでも人気だった案3は、「ともに」からは誰も取り残さず光を当てているというイメージが伝わり、「やさしさ」からは子どもの人権も重視するというイメージが伝わる。

○委員

案1の「みんなで築く」が好きだと感じた。原案は「まち」が重複しているので「みんなで築く 人にまちに未来にやさしい 西東京市」としてはどうか。

○委員

案4と案5は肯定的にも否定的にも捉えられる可能性があるため、候補から外しても良いのではないか。読み手が肯定的に捉えられることが重要であるため、自分事として捉えられる案1から案3が良いと考えるが、特に案3が良い。

○委員

案3は「ともに」や「みらい」という言葉が良い。会長案の「だから」も、夢を持って楽しそうなので心惹かれる。

○委員

案3に修正を加えて「ともにはぐくみ未来につなぐ 『やさしさ』と『いこい』のまち西東京」としてはどうか。

○委員

会長案の「だから」は良い印象のみの言葉ではないと感じるため決めきれない。案2の「深呼吸したくなる」は、他の自治体ではあまり出てこない案であるため、特色ある基本理念になるのではないか。安定感のある落ち着きどころは案3ではあるが、もう少し冒険しても良いとも感じる。

○会長

各自が一つに絞る流れになっているが、基本理念の候補を投票方式で二つ決めても良いのではないか。

○委員

これまで議論を積み上げてきたが、今回出てきた新しい案を全員の投票で選んで推薦するという結論は許されるのか。これまでのプロセスにおいては案3が注目されてきたが、それらの結果がなくなってしまうように感じる。

○会長

投票で決めて良いのか、ということに関しては気をつける必要があるが、審議会の短い時間で議論して結論を導くのは難しいため、ある程度絞って客観的に考える必要がある。

○事務局

本日欠席の委員からは案2の「深呼吸」という言葉からは安心や落ち着きを感じられ、市民にも分かりやすいのではないかと。ありきたりな言葉ではないため、市民の気を引けるのではないかと意見もいただいている。

○委員

「ともに」という言葉からは、市民全員というより2つの対象が一緒にと印象を受ける。「深呼吸」はとても良い言葉だが、「いこい」の漢字である「憩」には「息」が含まれており、ほっとするという意味を感じられるため意味が重複しているようにも思える。「深呼吸」というフレーズはとても印象的な言葉なので、ぜひ、別の場所で使ってはどうか。「やさしさ」「いこい」「つながり」は西東京市の多くの人々が大切にしたいと思っているので外せない。この3つにはSDGsの意味合いも含められるのではないかと。

昔から西東京市では「やさしいまち」という言葉が使われているため、「やさしいまちを築く」と今言うのはどうだろうか。「つなぐ」という言葉からは、ただつなぐだけでこれからの10年に発展性がないという印象を受けてしまう。「はぐくむ」には大切に守り発展させるという意味があって良いと思う。

前回の案3の説明では、「つなぐ」が「やさしさを未来へつなぐ」と「人と人とのつながり」の二つを意味するとあったが、分かりにくいのではないかと。

○会長

今回の議論では、各委員からは案3に対する関心が強かった。他に案2に対しての関心も強かった。次回の審議会に向けては、事務局において本日の会議を踏まえ整理いただきたい。

検討材料として、他自治体でどのような表現が基本理念で使用されているか、事務局に情報収集をお願いしたい。

議題3 その他

○事務局

次回の審議会は1月26日の午前10時から開催する。

○会長

第9回西東京市総合計画策定審議会を閉会する。

(閉会)